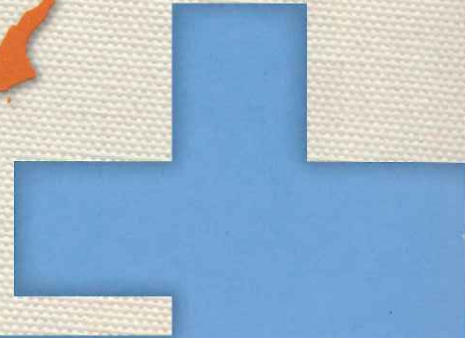


ひょうごの 赤十字



2016. 9 月
September



特集

子どもたちのこの夏のチャレンジ



ハイチから津田看護師が帰国
岡山県の高校生が阪神・淡路大震災を学ぶ
平成28年度 第1回地区赤十字奉仕団委員長会を開催
柏原赤十字病院が「平成28年度優良給食施設知事表彰」を受賞
講習のご案内

 日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番5号



078-241-9889



赤十字 兵庫

検索



子どもたちのこの夏のチャレンジ

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター

8月3日～5日、明石市立少年自然の家にて、小・中・高校生メンバーを対象に、集団生活や学習・体験を通じて「気づき、考え、実行する」力を育み、状況や役割に応じたリーダーシップを身につける青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター（以下トレセン）を開催しました。

今年は、小学生メンバーが初めて参加。49人が夏の思い出をつくりました。

1日目

初対面に緊張した面持ちのメンバーたち。青少年赤十字活動の基礎となる赤十字について学んだ他、中・高校生メンバーが企画したレクリエーションなどで、3日間一緒に行動するHR(班)メンバーなどと交流を深めました。積極的な声かけにチャレンジする姿が印象的でした。



AEDの使い方を体験中の小学生メンバーたち



カレーを評価中のスタッフが気に入り、傍を離れないメンバーたち



2日目

応急手当の基本や心肺蘇生とAEDの使い方、ロープワークや熊本地震災害での当支部の活動の話などを通じて、もしもの時のための知識や技術を学びました。昼食は、意見を出し合いながら食材の選択やトッピングで工夫を凝らしたカレー作りに挑戦。夜にはキャンプファイアも行われました。メンバーの連帯感が増しているのが感じられる一日でした。



関門突破に必死のメンバーたち



参加者募集ポスターを発表するメンバー

3日目

最終日はまとめの日。トレセンで学んだことが身についているか、HRの協調や親睦度を確認する関門を地図を頼りに力を合わせながら突破していくフィールドワークの他、トレセンの参加者募集ポスター作りや、この3日間を寸劇や紙芝居などで表現するワークショップに取り組みました。

メンバーたちからは、「中・高校生メンバーの姿が良い手本になった」「自分の行動にメリハリをつけられるようになった」「いろんな年齢の考え方や行動を感じることができて良かった」などの感想が聞かれ、成長の夏となったようです。

夏休みジュニアボランティアスクール

たつの市社会福祉協議会の主催で8月9日に開催された「夏休みジュニアボランティアスクール」に参加し、市内在住の小学4年生から中学生38人に、災害時などにできるボランティアの知識や技術を学んでいただきました。三角巾を使ったきずの手当てや心肺蘇生とAEDの使い方、毛布を使った搬送や非常食づくりと実食などに取り組んだ子どもたちからは、「誰かのために何かできるようにになりたい」などの感想がありました。





国際活動

ハイチから津田看護師が帰国

～ハイチコレラ衛生促進事業～

医療や保健分野で多くの人材を抱える日本赤十字社では、紛争や自然災害、病気などで苦しむ世界の人々を救うため、190の国と地域に広がる赤十字の国際ネットワークを生かし、緊急救援や復興支援、予防など、いのちと健康を守る活動に要員を派遣しています。この度、昨年5月に兵庫県支部からコレラ撲滅のためのハイチコレラ衛生促進事業に派遣していた津田香都看護師(姫路赤十字病院)が任務を終了し帰国しましたので、現地での様子をご報告いたします。



津田看護師(左から2番目)

ハイチ共和国は、中央アメリカのカリブ海に浮かぶイスパニョーラ島西部に位置する共和制国家です。平成22年1月にマグニチュード7.0の地震が発生し、被災者約370万人、死者約31万6千人の被害が出ました(外務省出典)。その後コレラが蔓延し、たくさんの方が亡くなりました。私は平成27年5月から平成28年7月まで派遣され、ハイチの中央県でハイチコレラ衛生促進事業(コレラ対応プロジェクト)に関わりました。具体的には、ハイチ赤十字社と協力して、現地の赤十字ボランティアにコレラの知識や発生したときの対応策を学んでもらう研修を行い、コレラが発生していない時には啓発活動を、発生すれば消毒や物資を配給するといった対応ができるようにするもので、ハイチの保健省や他のNGOとも協力して行いました。

研修を受けた赤十字ボランティアは、訪問した村の住民から「赤十字が来てくれた。ありがとう」と声をかけていただき、やりがいをもって活動しています。

まだコレラが消息していないハイチで、今もなお自分たちで活動を続けてくれている赤十字ボランティアと共に取り組むことができ、本当によかったと思います。



ハイチ共和国



青少年赤十字

岡山県の高校生が阪神・淡路大震災を学ぶ

～郷土の防災意識向上のために～

7月29日、阪神・淡路大震災における兵庫県支部の活動とその後の取り組みについて学ぶため、岡山県から山陽女子高等学校JRC(青少年赤十字)部の皆さん18人が当支部へ来られました。

JRC部の皆さんは、各地で災害が頻発する中、岡山県は過去に地震や台風などの災害が少なく防災意識が低いのではと感じ、万が一に備え郷土の防災意識の向上を図りたいと、オープンスクールの来校者や学童保育などで防災学習を行っています。大震災を経験した支部として、自助・共助が大切であること、若い人の力が必要であること、専門家でなくてもできることがあることなどを教えていただきました。

参加者からは「防災意識を高めていくにはどうしたらよいか」といった質問の他、「地元の方の話はリアルに感じることができた」などの感想がありました。

皆さんのますますのご活躍を期待しています。





赤十字奉仕団

平成28年度 第1回地区赤十字奉仕団委員長会を開催

7月26日、ひょうご女性交流館にて、平成28年度第1回地区赤十字奉仕団委員長会が開催されました。

開会あいさつで、北野委員長は「日ごろからの皆さまのご活躍に感謝申し上げます。さまざまな組織が結成、解散される中で、赤十字は世界のボランティア団体として認められ、人々がお互いに助け合い慈しみあうことをモットーとして今日まで活動を続けてきました。今日はこれからの活動について十分に話し合っただき、今後も、そしてこの会を契機に、ますますのご活躍をお願いしたい」と話されました。

今回の会議では、平成27年度の支部の活動報告をはじめ、地域赤十字奉仕団員研修会の日程と研修内容の協議、熊本地震災害における支部の活動報告などが行われました。



赤十字病院

柏原赤十字病院が「平成28年度優良給食施設知事表彰」を受賞

兵庫県では健康づくりの推進と向上に特に優れた功績を収めた施設を表彰する制度があり、平成28年度の優良給食施設として、7月8日、柏原赤十字病院が知事表彰を受賞しました。

柏原赤十字病院では「目指せ!喫食率100%」を目標に、患者さんが入院された時点で栄養士がベッドサイドを訪問し嗜好や喫食量などの聞き取りを行っている他、毎昼・夕食時の訪問による喫食状況の確認などで、できる限り一人お一人の思いに沿った食事の提供ときめ細やかな栄養管理を心掛けています。

さらには、看護師が栄養状態をアセスメントしやすいよう喫食量をカロリーに変換し、カルテに記載する取り組みも行っています。

柏原赤十字病院ではこのたびの受賞を励みに、今後も全ての患者さんに、安全・安心でご満足いただける食事が提供できるよう頑張っております。



講習のご案内

救急法基礎(1日受講)

10/22^①
11/19^② 13:00~17:30

救急法基礎・救急員養成(3日間受講)

11/3^①、5^②、6^③
11/20^④、26^⑤、27^⑥ 9:30~17:30

◇申込期日は開催日(初日)の1カ月前までです。 ◇会場は日本赤十字社兵庫県支部です。

お問い合わせは、お電話またはホームページで ☎ 078-241-1499 (講習係)

いのちと健康を守る赤十字活動は、
皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています

活動資金にご協力をお願いします



平成28年度 新たな災害救護拠点施設を整備!!

大規模災害に備え、全国各地の被災地への支援や全国からの受援の拠点となる施設の整備を計画しています。(場所:三木市)

郵便局・ゆうちょ銀行からもご協力いただけます

口座記号番号: 01110-0-1136
口座加入者名: 日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取扱いの場合、振込手数料は無料です。